

授業方法について独自に工夫していること 【教育科学系】

授業の方法として、次のような点に留意あるいは工夫をして行っている。

- ・あえてパワーポイントを印刷せず、メモをとる習慣がつくように配慮していること。
- ・視覚的に理解が深まるように、できる限り授業テーマに関連するVTRや配布資料、写真等を用意していること。
- ・10分～15分程度、少人数で授業テーマに関して話し合う時間をとったり、コメントカードという形で授業を学生個人が振り返る時間を取るようになっていること。

座学で終わらないように、ゲストをお招きして、学校現場で何が起きているのかを、具体的に知ってもらおうと努めた。

また、日本語がわからない児童生徒やその保護者とのコミュニケーションに必要な知識を具体例を示しながら伝えた。

- ・百数十名の大人数講義であるが、ほぼ毎回問いを立てて、周りの学生同士で意見交流させるようになっている。
- ・意見交流の結果を踏まえた学生の考えを何名かに出してもらい、それを踏まえた上で、講義を進めるようにしている。そのことで、学生の経験・意識・考え方と授業内容との共通点と違いを受講生が認識できるように心がけている。大げさに言えば、生活と教育の結合、生活と科学の結合を意識しているということになるだろうが、大げさすぎますね……。
- ・出された学生の意見は、できる限り否定・批判しないようになっている。
- ・授業後に書いてもらっているリアクションペーパーに、学生が思っていること、考えていることをできるだけ素直に書けるような工夫を心がけている。多少批判的な内容、一見授業と関係ない内容も時々紹介するようにして、学生が素直にリアクションペーパーを書けるように心がけている。
- ・パワーポイントの資料はかなり丁寧に、かつ見やすいものを心がけている。

学生どうしの対話や意見表明を積極的に取り入れている。教育実習などの実践活動と教育相談の理論をできるだけ融合できるように授業の組み立てをしている。4年生ということもあり、コンピューターを準備する間の細切れ時間に本授業に関する実践問題を解き、教採に対する意識を高めている。

本授業では、大学に入学して初めて心理学を学ぶ学生のために、抵抗感を減少させつつ心理的諸事実に馴染みやすいようにイラストを多用したスライドを使用している。また、新しい学習指導要領にあるように学生間で対話、すなわちディスカッションできる話題や時間を設けている。さらに、主体的関与を促すため、心理学の教科書を使い範囲を定め各人が模擬授業を行ってもいる。教職の授業であるため、その模擬授業に対し、聞き手がコメントを書き発表者の向上に資するように制度設計している。多くの同学年による模擬授業を見て、良いところを見習い、改善点を考えるなど聞き手にも有益であるが、クラスの人数が多いのが難点である。

12名という少人数の講義であるので、学生とのやりとりの時間をできるだけ確保している。学習指導要領の具体化したイメージが湧きやすいように、学生は、児童用教科書を常に見ながら講義を受けられるようにしている。また、児童用教科書は1社だけでなく6社のものを年代を追って準備している。また、グループで検討する機会を十分に取った。単元構成の作成時には指定された内容の単元構成に関する参考図書を授業前に図書館で探してくるよう指示して行った。

一方的なやりとりにならず、双方向、あるいは学生同士の話し合いを重視している。

学部1年生が受講するため、目で見てわかりやすい資料を用いること。また、課程共通科目でもあり、興味関心のない学生も多いと思われるため、あまり専門的な内容に踏み込みすぎないようにすること。

次回の講義に関連する課題を出し、各自で調べてくるよう指示している。また当日の講義では、受講生を小グループに分け、自分で調べてきた課題の解答を相互に紹介しあい、話し合いの結論をグループの代表に発表させている。講義の最後には学生にコメントカードを書かせ、数名のカードを選んで印刷して次回の講義で配布するとともに、別の数名のカードを口頭で紹介している(いずれも名前は伏せている)。

・専門的内容をできるだけわかりやすく説明する。
・心理学を学校教育の問題と関連づけて説明する。
・パワーポイントを使用して、障がいのある学生にもわかりやすくする。
・ときどき、グループワークをおこない、参加型授業にしている。
・学校の児童生徒の様々な課題に関わるビデオを鑑賞させてコメントを書いてもらい、各コメントに回答を書くようにしている。

・読書タイムを設け、テキストを読む時間を作っています。
・レポートを輪読し、レポートの書き方を相互に学ぶようにしています。
・グループワークを3回ほど入れています。

生活科という教科の特質を踏まえ、体験活動と講義をバランスよく配置している。
学生同士で学び合う機会を確保するため、グループによる発表・討議の場を設定している。
「C-Learning」のシステムを使い、すべての学生の意見を授業に生かしたり、学生同士で意見交流をしたりできるようにしている。

・第1に、受講生が主体的に学びを深めてくれるようにできる限り毎授業でアクティブラーニングを取り入れるよう配慮しています。各回の授業テーマに沿ったグループディスカッションテーマを提示し、授業内容の定着と意見の共有を図っています。
・第2に、「教育思想」をベースにした抽象的な内容を扱うことも多いため、これでもできる限り現代的な教育課題や問題に関連する「動画」を鑑賞し授業内容を、各自が具体化できるように配慮しています。

一方的な知識注入の授業ではなく、学生が自己の考えを多く表出できるように授業を構成することを心がけた。
グループディスカッション、全員模擬授業、実際に使用されている教材の吟味等、理論と実践を融合できる場面(課題・学習形態)を授業の中に組み込むようにした。

本授業では視聴覚教材を用い発達段階の違いについての理解を深めたり、簡単な実験を通して人の記憶・学習の仕組みについての知識を体感を持って獲得する試みをしている。

・生活科の目標・内容・方法について、できるだけ資料の読解や説明のみに頼るのではなく、生活科の教科特性に従い、活動や体験をしたことから実感を伴った理解ができるようにしている。
・生活科の教科特性に従い、教室を飛び出したり、教室の中であっても制作活動や表現活動をしたりして、座学のみにならないようにしている。
・1時間に1課題を提示し、それを自分で考え、グループで協議し、全体で情報交換して課題解決をしている。課題解決のパターンを示したノート(A4表裏1枚)を活用している。

理論に関連した具体的なエピソードを提示し、日常や将来の仕事での活用を念頭に置いて、授業を行っています。具体的なエピソードを日常生活における場面、医療現場・教育現場における場面から提示しています。また、学生自身のこれまでの学校生活や日常における体験を振り返る機会を設けることで、自分自身と体験と理論を結び付ける働きをしていました。内容量や難易度については、ちょうどよい、という評価を受け、良かったと思います。講義の様子から、90分は1年生にとっては長く、疲れが見える学生もいました。45分を目安に、リアクションペーパーを書く機会を中間と最後の2度設けることで、小休止をとるようにしていました。

生活科研究ということで、学習指導要領で示された生活科の目標や内容などについての理解をするための講義は行うものの、教科書を活用し、実際の小学校で小学生が行う体験活動を中心とした授業に心がけた。

アクティブラーニングを取り入れている。
DVDを使用したり、障害のある人の体験ワークを取り入れたりしている。

授業はスライドを使用して進行し、スライドと内容が連動している資料を学生に配布している。また、学生自身が自分の考えを記入する箇所もあり、グループで話し合い、他者の意見を知る機会を作っている。このことが、学生同士で授業内容を深めあったという項目の評価に繋がっていると考えられるが、今年度の学生は、教員の手助けがないとなかなか学生同士で話し合うことが難しい様子であった。また、課題を出す、調べ学習するという時間を取らなかったために、自ら情報を集めて検討したという項目についての評価が低かったと考えられる。

教材研究に繋がっていく内容を扱うように心掛けています。
将来学校現場等で、この授業で制作した技法集(本)を見ながら教材の内容を検討したり、教材を研究したりすることができるようになればとの思いから、授業で扱った内容や学生たちが制作した作品等を1冊の技法集(本)のようにまとめてもらっています。

講義形式の教職科目のため、一方通行的な授業展開にならないように、授業中に適宜、小レポートを実施している。
これは、学生の理解度を測ったり成績評価の材料にするためというよりは、学生からの質問や意見、さらなる問題提起をうながすために行っている。
そのほかに、テキストの適切な使用、補助プリントの作成、新聞記事等を活用した現在の教育問題との関連づけなどに心がけている。

授業は講義形式で行うが、プレゼンテーションの資料を配布するとともに、空欄を設けて、各自で記入できるようにしている。

【共通】

- ・毎回、リアクションペーパーを書かせ、次回授業のときに復習を兼ねて取り上げ、全体で質問等を共有している。
- ・ワールド・カフェとOSTの手法を用いて、15回中2回ほど議論・発表をさせている。
- ・レポートは、評価とコメントをつけて希望者に返却しており、それを授業でも活用している。

【教育の社会的研究】

- ・PPTのスライドに、教員採用試験も意識して「まとめ」の部分をつくり、復習として学生自身に穴埋めを回答させている。
- ・授業の末尾に20分程度、必ずグループで討議する時間を設け、その後全体で共有している。従来は10～15分程度であったが、今年度から時間を拡大し、フリップボードに記入する作業も行い、成績評価にも組み入れた。

【E選 世界の大学とキャリア形成】

- ・生徒によるプレゼンテーションと討論を中心に授業を進めている。
- ・外部講師を招聘して講演してもらうなど、授業内容を職業社会とつなげるように意識している。

生活科は、具体的な活動や体験を重視する教科です。

この教科の特性とそのための指導法や評価の在り方を具体的な子供の姿を通して理解できるように、より多くの活動や体験を取り入れた実践的な授業をおこなうことを心がけてきました。実際の授業を視聴し、授業分析も行ってきました。

毎回授業の感想を書いてもらい、一人一人の考えや、疑問に答えるようにしてきました。その感想を、次回の授業にも生かしてきました。

可能な限り体験や経験から学ぶことの大切さが実感できる場面を授業に取り入れている。

具体的には①の授業の場合は、隣接校実習直後の授業である回には、まだ意識が新鮮なうちに相互に実習の経験を少人数また全体で話し合う場面を設けている。また②の授業においては、大学を離れてグループごとに課題設定から、資料収集、発表までを実施する「探究」による活動を取り入れている。

また、補講においては、生活科・総合的学習の研究校において実践観察と児童と交流を持つ機会を通して、講義で話してきたことを実際に確かめる機会を持つようにしている。

- 1 学生がわかりやすく理論と実践の結びつきを理解できるよう使用教材を工夫している。
- 2 アクティブラーニングに手法を取り入れながら、今日的な諸問題と照らし合わせて、教員になった時の実践に役立つような授業構成を心がけている。
- 3 自らの研究や最先端の学術情報活用しながら、職業指導・キャリア教育に関する興味と理解が高められるよう授業展開を工夫している。

1) 毎回、授業についての感想や気づき、疑問点などをコメントカードに記入させた。コメントカードに記入された授業に関する気づきや疑問点を次回の授業で全体にフィードバックしつつ、それを踏まえながら授業内容の調整を行っている。
フィードバックを行うことで、同じ教室で学ぶ学生のコメントから学びや気づきを得ている様子が見受けられる。

2) レジュメを穴埋め式にし、キーワードを学生自身に記入させることにより、座学であっても授業への参加意識を促している。

幼児教育との接続を意識した愛知県知多地方教育計画案のスタートカリキュラムを取り上げ、5分間程度のシナリオを作成させる。具体的な指導場面における予想される児童の反応をできる限り詳しく想定させる。グループワークによって相互に批評し合い、各自のシナリオを修正させる。シナリオを用いてロールプレイを全員が行い、児童役の言動の質を高めるように指導する。

- ・外部の専門家を招き実践的な話を聞いたり、フレームワークを使って課題を明らかにさせるなど、学生が主体的に取り組むための支援を意識した授業を心掛けている。
- ・毎回授業後、振り返りシートに授業の要点や課題に思う自身の考えを書かせることで、授業の理解、課題意識の向上に努めている。

教育実践の理論と技法を理解・習得させることが目的の授業であり、理論のみ・技法のみといった偏りなく、理論に裏打ちされた実践技法という観点から学べるように、授業内容・教科書の選定や作成課題の内容を考慮した。技法の意義と目的や効果について講義でよく把握させたうえで、それを学生自身の作成する授業計画に反映させる演習課題を通して、技能の習得につなげさせることを意図した。

学生のやりとりを中心に授業をおこなっている。基礎的な知識の獲得後に、あるテーマについて理解を深めるようにグループ学習を取り入れている。